

単元を貫く学習課題で個別最適な学びと協働的な学びを目指す実践授業

—MQとSQを設定し、問いを構造化する—



今号は編集部が取材した深い学びに結び付く実践的な授業実践をお届けします。(2025年12月訪問)

◆訪問先

柏市立柏高等学校 佐藤 崇 先生

1年「地理総合」単元「地球的課題と国際協力」5時間目

◆ICTの活用状況

- ・1人1台のChromebook ・Google Classroomで共有
- ・プロジェクター

1 授業の流れ

(1) 授業形態と本時までの経緯

佐藤崇先生(以下、先生)は、「地理総合」の年間授業計画の中で、単元を貫く学習課題(以下、MQ)を5つ設定し、学習課題に応じて単線型、複線型、自由進度型という授業形態に分けて進めています(図1)。MQは、先生が学習指導要領にのっとり、単元ごとに生徒が自ら多面的・多角的に課題を分析し、考察することができるように設定しているものです。先生は、学年の最初の授業で、生徒たちに年間の授業計画(図1)や授業の進め方などを明示し、その上で1学期は単線型、複線型の授業を主に行い、2学期半ばから3学期にかけては生徒が自ら学習方略を立て、個々の進度で学習する単元内自由進度型を交えて授業を進めていきます。

今号で取材した授業は、「2節 食料問題」(『高校生の地理総合』p.168～169)を主題として取り上げる単元内自由進度型で、6時間のうちの1時間でした(図1 図3)。先生は、単元の冒頭で、学びの目標となるMQと、MQに結び付く段階的な副発問の学習課題(以下、SQ)2～3題、さらに評価規準(ルーブリック

【知識および技能の評価のポイント】
 A: 食料問題について、各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などを大きく理解し、持続可能な社会の実現を目指した国際協力や各国の取り組みを、GISなどの諸資料をもとに理解し、まとめている。
 B: 食料問題について、各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などを大きく理解し、持続可能な社会の実現を目指した国際協力や各国の取り組みを、資料をもとに理解している。
 【思考力、判断力、表現力の評価のポイント】
 A: 地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、食料問題について現状や要因、解決にむけた国際社会や我が国の取り組みの方向性と持続可能な社会づくりにむけた自己の見解を多面的・多角的に考察し、表現している。
 B: 地域の結び付きや持続可能な社会づくりに着目して、食料問題について現状や要因、解決にむけた国際社会や我が国の取り組みの方向性などを多面的・多角的に考察し、表現している。
 ※成果物で【知識・技能】【思考・判断・表現】に各6点～1点加点(A=6点、B=3点、C=1点)
 ※このスライドファイルをそのまま利用してください。自由に加除修正していただいてもかまいません。

図2 クラウドで配布している評価規準(スライドの一部)

授業時数	主な学習課題(MQ)等	副発問(SQ)等	授業形態	指導要領	学期		
1	授業開き	シラバスの確認、クロムブックの使い方、資料やAIの使い方の一歩、複線型授業の説明と実際にやってみる		A	1学期		
MQ: 地図や地理情報システムは、私たちの世界の認識にとつどのような役割を果たしているのか?							
2	①単元を貫く学習課題を把握しよう ②私たちは地球上の位置をどのように捉えているのだろうか?	Q: 市立柏高校の位置を、地図帳などを用いてあらわそう。 Q: 地球上の位置の違いによって、どのような影響がもたらされているのだろうか? Q: なぜ、自夜・極夜が起こるのかを、図を用いて説明しよう。	単線型				
3	時差が生じる理由、「時差」について考えよう	※いくつかの事例を提示し、解決	単線型				
4	略	略	単線型				
5・6	地理情報システム(GIS)は、私たちの生活のなかでどのように役立てられているのだろうか?	Q: GISってなんだろう?—動画をみて、GISについて学ぼう Q: 身の回りで活用されているGISを探して、どのような使われ方をしているのか? Q: GISはどのような技術によって成り立っているのか?	複線型				
7	略	略	複線型				
8	略	略	複線型				
9	略	略	複線型				
10	略	略	単線型				
略							
MQ: 世界には、なぜ、多様な衣食住の文化が存在しているのか?							
14	略	略	単線型	B-(1)	2学期		
15	略	略	単線型				

MQ: 世界には飽食を可能とする人々がいる一方で、なぜ飢餓や栄養不足で苦しむ人々がいるのだろうか? このような食料問題を解決するために、日本あるいは国際的に、今後どのような取組をすべきなのだろうか?					
22-27	単元の流れ: 早く進められる場合、自分のペースで進めてOKです。 1～3時間目の途中: 自由に進めてください(SQ1～3) 3時間目後半: 共有 4時間目: MQ着手 5時間目: MQについて教え合い(1回目)→MQ作成 6時間目: 完成・まとめ	SQ1: 現在世界ではどのような食料問題が起こっているのだろうか? SQ2: 食料問題には、どのような類似性や規則性、地域的特殊性があらわれているのか?～先進諸国と発展途上国、気候帯、食料問題の要因は?～ SQ3: 世界には飽食を可能とする人々がいる一方で、なぜ飢餓や栄養不足で苦しむ人々がいるのだろうか?～気候帯と食糧生産・人口爆発・飼料～	単元内自由進度型	B-(2)	2学期

は取材した本時

図1 生徒に配布する「地理総合」の年間授業計画(抜粋)

(MQ:メインクエスト、SQ:サブクエスト)

令和7年度の授業計画では、1学期は単線型6時間、複線型7時間、2学期は単線型5時間、複線型2時間、自由進度型9時間、3学期は自由進度型12時間で計画されている。

時間	学習活動の概要	個別最適な学びへの手立て(●)と協働的な学びの手立て(◆) 評定に用いる評価(■)
1	・単元を貫く学習課題を把握し、予想・学習方略を立て、本単元での探究の主題を把握し、単元の見通しを立てる。 ・地球的課題としての食料問題の現状と種類を概観し把握することができる。	●単元を貫く学習課題と各学習課題を把握することで、単元の学習活動への見通しを立て、(前単元の振り返りも参照して)学習方略を作成する。 ■単元を貫く学習課題への予想、単元の学習活動の学習方略を立てている。【主(自)】
2	・学習方略を参照し、食料問題の類似性や規則性、地域的特殊性を、自己調整しながら主体的に探究する。	●学習方略を参照し、(端末を活用し)自己調整しながら学習活動に取り組む。
3	・「飽食と飢餓」問題を題材とし、世界の食料問題の要因を多面的・多角的に主体的に探究する。 ・3つのSQを学級で共有する。	◆級友と協働も自己判断しながら課題を探究できるような学習空間を設定する。 ●◆伝え合い・教え合いの場面で、どの生徒も必ず発表し、他者の考えを聞く場面を設定する。 ■SQ1~3の評価規準に該当するスライドを作成している。単元終了後提出。【主に知・技】
4	・前時までの学習内容を活用しながら、MQについて、どのような観点・側面・立場から追究していくかを選択・判断し、解決の方向性を考察し、まとめる。	●学習方略を参照し、(端末を活用し)自己調整しながら学習活動に取り組む。 ◆級友と協働も自己判断しながら課題を探究できるような学習空間を設定する。
5	・前時までの学習成果を級友に伝え、級友の成果物を見て自己の考えを伝える。 ・級友からのアドバイスを参考にしたりして、自己の考えをまとめあげる。	●◆伝え合い・教え合いの場面で、どの生徒も必ず発表し、他者の考えを聞く場面を設定する。 ■級友からの助言や資料をもとに主体的に探究しようとしている。【主(自)】
6	・成果物を提出する。 ・単元の振り返りシートを記入し提出する。	■MQの評価規準に該当するスライドを作成している。【主に思判表】 ■SQ1~3、MQに粘り強く取り組んでいたか?【主(粘)】 ■予想と解を比較し学習の深まりを確認する短作文・単元の学習方略を振り返り短作文。【主(自)】

図3 先生が作成した本単元の全体計画(6時間扱い)

ク、図2)を明記したワークシートのファイルをクラウド上で配布し、生徒たちに情報を開示・共有していました。生徒は、収集したり読み取ったりした資料を活用しながら、SQ1~3、そしてMQへの探究学習に取り組み、成果物としてスライドを作成し、最後に全体で共有します。

先生は、生徒一人一人が学習方略を立て、自己調整しながら自分のスライドを完成させることで、一人一人が深い学びに結び付くことを大事にしていました(図3)。

(2) 本時の授業展開

本時の授業は、以下のような流れで進みました。

- ①生徒は、前時までに取り組んだSQ1~3の成果について、ペアまたはトリオになって説明し合い、教え合う(1人各2分間)写真1。
- ②先生は、生徒たちの間で「食品ロス」について多く取り上げられていることに触れ、この後どのように探究していくかをモデリングとして生徒の1人に説明させる。
- ③生徒が、探究の進め方について、自分ごととして近くの人と話しながら考える(約30秒間)。
- ④先生に指名された生徒が、アイデアを発表する(先生と生徒のやりとり)。※右段囲み参照
- ⑤生徒は、個人またはペアやトリオになって自己の探究作業に取り組む(約30分間)。

探究作業の間、生徒は、組になった相手と相談したり、資料やWebで調べたりしながら、一人一人が真剣にスライドを作成していました。一方、先生は、基本的に机間巡視(写真2)やGoogle Classroomの管理画面での確認を通じて、生徒のスライド作成の進捗状況を把握していました。進捗が早い生徒もいれば、つまづいてしまう生徒もいます。先生は、生徒の状況に応じて、先輩たちの成果物の共有(他者参照)や、関連図書の示唆、作成中のスライドへのコメントなど、個別にアプローチして考えが深まるように支援していました。

先生と生徒たちの実際のやりとり

- 「余った食材を飢餓の多い国に送るのはどう?」
- 「地産地消して輸入を減らし、その分を発展途上国にいくようにする」
- 「先進国の輸入を減らせばいい、そのために地産地消が原則。これは論理的だね。でもそうするとわれわれはバナナとか食べられなくなるけどいい?」
- 「(沈黙)」
- 「そこはそれぞれの価値判断。一方が良ければ一方が悪くなることはたくさんあります。それが多面的・多角的な見方です。有権者、主権者として判断できるように、残り30分、悩んでください、いっぱい相談してください」



写真1 教え合い

教え合いでは、SQ1で問われている、世界で起きている食料問題について、文章だけではなく地図や統計データを使って根拠を示しながら説明している生徒も多かった。



写真2 机間巡視

ゴキブリやコオロギなど昆虫食について調べている生徒に「おもしろいね」とほめ、昨年度の先輩も昆虫食に着目していたと他者参照を促す。

